



2

TOUYA



CHIHAYA



IBUKI



for adult only

MOMOTA-KE 2

This story is about the Momota siblings'
(occasionally naughty) normal everyday life.

Momota Family's Three Brothers

● First-year students



Eldest Brother **Ibuki Momota**

The cool eldest son who does things his own way. His favorite thing to do is play games indoors and listen to music. He doesn't really care for physical exercise, so he doesn't belong to any clubs.



Middle Brother **Touya Momota**

The always cheerful but noisy second son. His stylish appearance makes him popular with girls of all ages. Recently, he's taken an interest in erotic things. He belongs to a soccer club but rarely participates.



Youngest Brother **Chihaya Momota**

The serious and meddlesome youngest son. He takes pride in exercise. He belongs to both a swimming club and a track and field club. Since his brothers don't bother, he generally takes responsibility for all of the housework.

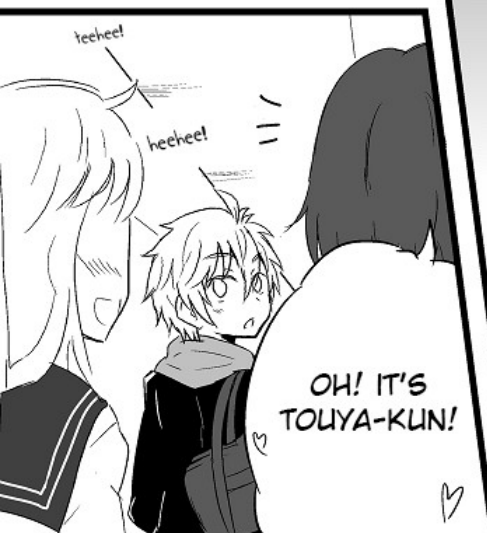




HM?

AFTER
SCHOOL

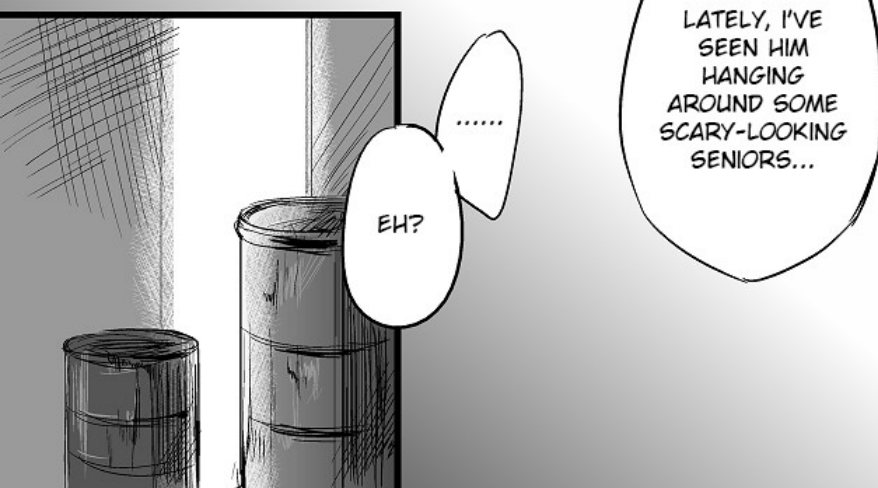
TOLYA!

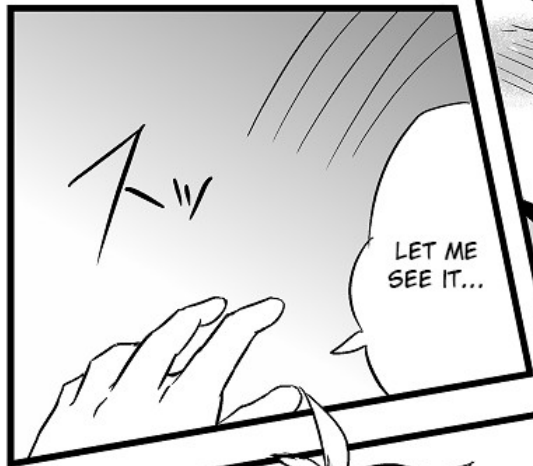


















YOU'RE USED TO JUST USING IT YOURSELF. HOW DOES IT FEEL TO BE EXPLOITED BY US INSTEAD?

JUST LOOK AT HOW HE'S REACTING TO THE STIMULATION, HE'S NOTHING BUT A HORNY BASTARD!

LET ME GO!!

AA
AAAA

AA
AA

ANG
NGG
TXX

ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ

ah

Pyoh?

ウ,

ウ
ウ

3.3

ウ

3.3





WHA-WHAT
ARE YOU
DOING!?

ALRIGHT!

ぷん

スル
ッ



WELL,
HE'S JUST
ABOUT
READY♪

THIS GUY'S BODY
ISN'T AS LOVELY
BUT... AH WELL

ア
ア
ア
ア
ア

SLURP
SLURP
SLURP

DROOL

DROOL

ん？

!??

hah
hah

ん

ん

ん

ん





IT'S NOTHING~
I JUST GOT
WRAPPED UP
IN A LITTLE
SCUFFLE

EH, WHY ARE
YOU ALL
BEAT UP!?



YOU'RE
LATE
TOUYA!
DO YOU
KNOW
WHAT
TIME IT...

I'M
HOOOME



A
SCUFFLE
.....

I'M GOING
TO TAKE A
BATH~

A A A

.....

To be continued

□ Afterword

Next time in "Momota-ke 3", all the action will be focused on the eldest brother: Ibuki! Will this result in disaster for the Momota brothers...!?

This time, new minor characters were introduced. From now on, their roles will be more active...maybe? (The publication date of the next book is still undecided, so please be patient ><) (Editor's Note: The next book is out already and translated soon!)

■ Prince Kita

Ibuki's tall classmate with a friendly personality. He seems to have an interest for Ibuki and calls him by the anime character derived petname "Ibuki-dono"



■ Nakatani

Touya's classmate who is somewhat delinquent in appearance. He doesn't really like people like Chihaya. This time, he went through a lot with Touya. What will happen next...?

■ Odaka-kun

Odaka"-kun" became friends with Chihaya since they're both part of track and field club. He gave Chihaya the nickname "Mocchi". Odaka can be a little confusing to talk to since his speech is imperfect and he has a thick accent.



□ゲスト小説:ももたけの夏休み(作:イツナ様)

「たっだいまー！」

屋外の雨の音と共に騒がしく十夜が帰宅するなり、奥から千早がタオルを持って飛び出してくる。

「ちよっと待った十夜！ 拭いてからあがって！ 今日廊下ワックスがけしたばっかなんだよ！」

さっすが、気が効くじゃん、などと言いつつ頭に被せられたタオルで頭を拭きながら、十夜は一枚の紙切れを突き出した。

「そーいや、こんなのポストに入ってたぜ」

「ん、なにこれ」

差し出されたのは何かのチラシのようで、雨に濡れてふやけているが、油性インクでプリントされているおかげで文字はきちんと読める。

「町内会の夏祭り……来週かあ。そういえばもうじき梅雨明けだったけ」

チラシに千早が目を通していると、びちゃびちゃと水が床に落ちる音がしたので慌ててそちらを確認したら、十夜が服を脱いで染み込んだ雨水をしぼっているところだった。

「わっ、ちよっ、もう少し考えろよっ！ みんなの靴が濡れちゃうだろ！」

「あ、わりい、オレもう靴下もベシヨベシヨなせいで気がまわらなかつたぜ」

「十夜はいつもこうだろ！」

言い合いをしながら二人が居間に行くと、我関せず、といった様子で、ヘッドホンを着けて一吹はゲームをしている。が、ちゃんと十夜が帰ってきたことには気付いていたようで、ゲームを一時停止してからヘッドホンのドライバーを片方カパリ

と手で持ち上げ、おかえり、と一言のたまった。

十夜はただいま、と応えつつ、千早にバタバタと風呂場に押し込まれ、千早は居間に戻ってテレビを点けて、ニュース番組のチャンネルに合わせる。

暫く政治や経済のニュースが流れた後、天気予報のコーナーになった。

ニュースによれば、数日のうちにこの地域も梅雨明けを迎えるらしい。

「えっと……夏祭りの日は……お、晴れだ」

千早が確認していたチラシが気になったのか、一吹がゲームを中断して覗きこんできた。

「なに、このチラシ」

「さっき十夜がポストからとってきた。夏祭りだつてき……一吹兄、行く？」

「ごめん……その日、ギルドメンバーと大規模レイド有るから。千早と十夜の二人で行ってきて。留守番しとく」

「お、おう……」

そうこうしていると、石鹸の匂いを漂わせながら、パンツ一枚の十夜が風呂場から現れる。

「どーよ千早、晴れそう？」

「降水確率十%。まあ、晴れると思う」

この言葉で、十夜の表情が「おっ？」といったものに変わった。

「十夜兄は？」

「ネットゲの大規模戦があるから行かないって」

「なんでえ、ノリ悪いの」

「……あつ、そういえば……俺も……」

「んだよー、ちーちゃんまで何かあんのかよー」

「陸部の練習あったかも……」

それでも未練たらたら、といった様子でチラシを眺める十夜。

「それにしても、十夜がこういうのに積極的だなんてめずらしいけど、なんかあるの？」

「ふふん、よくぞ聞いてくれたちーちゃん。なんとこの夏祭り、行ったら団扇がもらえるんだけどな、それぞれに抽選番号がついてんだよ」

「ふーん……どうせ扇風機とかそういうのでしょ？」

千早の意見に、まるでその言葉が出ることがわかっていたかのようににやりとする十夜。実際、ある程度予測はしていたのだろう。

「まあ、確かにそういうのもあるけどな……今年は駅前商店街五十周年ってことで、いろんな店が協賛してるみたいでさ、肉のハセガワの黒毛和牛特上サーロイン500グラムとかもあるんだぜ！」

「……うーん、行きたい、けど練習がなあ……」

「他には、いずも書店からの図書券とか、文具のゆきやからステッドラーの高級色鉛筆とか……あと、イシダ電気から……うお、すげえ、プレステ4だってよ」

十夜が言ったとたん、一吹の眼の色が変わった。ヘッドホンを外して、テーブルに置く。

「……事情が変わった。俺も行く。千早も来て。抽選だから、三人のほうがいい……」

「ん、でも練習あるかもだし……」

「明日確認して、練習あるなら休めばいい。千早は毎日ちや

んと練習してるから、一日くらい休んでも大丈夫……」

「そ、そう……？ そうかなあ……？」

おだてられてにやけ、その気になっている千早を一吹が言いくるめ、斯くして百田家三兄弟は、夏祭りに参加することと相成った。

そして当日、浴衣の着こなしには各人の性向が色濃く反映される。

「十夜兄、人前に入るんだからあんまはだけさせるなよ」

こう言う千早は、暑さのせいか腕を捲くつて襷掛けにしている。

「ちーちゃんこそ、腕まくりはいいのかよ！」

言い返す十夜は、指摘されるとおりに胸元は大きくはだけ、ほぼ臍のあたりまで見えてしまっている。まるで江戸時代の傾奇者のような風体だ。

「プレステ4、必ず手に入れる……」

目に見えてやるき満々の一吹は、きつちりと帯も貝の口に締め、襟元を抜くこともなく、どこから見ても文句のない着付けになっていた。

「行くよ、目指せプレステ4……！」

「えっ、いつからそういう目的に？」

「オレは肉食えたらそれでいーぜ！」

……こうして、祭りの会場へ向かった三人が、目当ての景品を手に入れたのかは、神のみぞ知る所となる。

ただ、1つだけ付け足すのなら、帰りに一番輝かしい顔をしていたのは……十夜だった。



あとがき

どうも、めばた瞬です。まず初めに2冊目が完成するのが大変遅れてしまい本当に申し訳ありませんでした。元々遅れてたのもあったのですが、秋から冬にかけて持病が悪化し日常生活すら間々ならぬ状態になってしまい、療養をするので精一杯でした。言い訳になってしまいますが…
解りきっていた事です、不摂生で無理をしても良い物は作れませんね、心身共に健康な生活が大事だと痛いほど思い知った1年でした。

内容の話になりますが、『ももたけ2』いかがだったでしょうか。
まだまだ稚拙な部分がありますが、色んな物を描けるようになろうと勉強しながら描きました。
今回は表紙に全くエロ要素を出さなかったのですが、ああいうキャピキャピした表紙のエロ本があってもいいかなあ…と、それが十夜の二面性にも繋がるような気がして今回はこのような形になりました。

新キャラも登場しました、三つ子の友人でそれぞれ 北大路・中谷・小高です。
こいつらが今後どう三つ子と関わっていくのか？楽しみにして頂けたらと思います。
小高くんなんかは、デザインが割りと早急に似てしまってるので差別化が難しかったりするのですが、
親しい友人って結構似た系統の人になる気がするんですよね。なんとなくですが。

それでは次は一吹がメインの『ももたけ3』で御会いしたいと願っております。
一応ももたけシリーズはこの3で一つの区切りが付き、まだまだ起承転結に起・承の部分にしかありませんが、
どんな形に仕上げていくのが作り手の自分も楽しみです。

また今回グッズ展開も開始致しました、今後第二弾、第三弾と企画していこうと思いますので、
どうかお付き合い頂ければ幸いです。それではここまでお読み頂き本当に有難うございました。

めばた瞬

スペシャルサンクス

ゲスト小説執筆：イツナ様
「割れてない縦線だけの腹筋も好きです」

修羅場臨時アシ：とえる様

奥付

2014/1/26
ももたけ2
発行
マジハワ。
連絡先
Twitter:mebata
pixiv:18567
印刷
あかつき印刷様

禁・無断転載、複製、アップロード



ももたけ情報アカウント
@MOMOTA_KE



この物語は百田家三兄弟の
(たまにHな) 日常を淡々と描く物です。





Shotachan Translations

Visit us at

<https://shotachan.net/translations>

<irc.shotachan.net>